



津久見幹部交番からのお知らせ

進級・進学時における少年の非行・犯罪被害防止と有害環境の浄化

◆こどもの非行や犯罪被害を防ごう！！

進級・進学時期は、生活環境や人間関係が大きく変化し、非行や犯罪被害に巻き込まれやすい時期なので、こどもの小さな変化やサインを見逃さず、早い段階で声をかけたり、こどもが犯罪被害に遭わない環境を作りましょう。

◆SNSやネット利用の危険性や注意点を知ろう！！

こどもに指導して欲しいポイントは以下の通りです。

- ・相手の言うことを完全に信用しない
- ・個人情報絶対に投稿しない
- ・自分の写真を送らない
- ・インターネットの情報は全て正しいとは限らない
- ・困ったときは必ず誰かに相談する
- ・インターネットに載せた情報は完全には消えない
- ・SNSで知り合った人と会わない、連絡を取らない

◆こどもの成長に合わせたルールを作りましょう！！

進学・進級のタイミングで、こどもと話し合い、インターネット等の利用に関するルールを決めたり、見直すことをお勧めします。

ルールづくり以外にも有害サイトや危険なアプリへのアクセスを自動的に制限・ブロックするフィルタリングなどの機能を活用し、こどもたちを守りましょう。

◆資料を活用しましょう！！

警察庁webサイトで、こどもの性被害対策など被害防止のための漫画や動画など様々な啓発資料を紹介していますので、ご家庭で活用してみてください。

【問い合わせ】 津久見幹部交番 ☎0972-82-2131

⚠️ 駐車場では必ずバック駐車をお願いします ⚠️

地域社会とともに生きる じんけんふれあいシリーズ ⑥7

みなさんは、

部落差別問題を

ご存知ですか？

正しい知識と理解を

その11

人権コラム

差別は受け継がない

2008年頃に、宮崎県内の大学生が書いた「体験談」を紹介しています。

私の姉は婚約者の母親から出身地を聞かれました。

その後、姉が部落出身だという理由で母親や親戚から反対された婚約者は結婚の意思をなくし、姉たちの交際は終わりました。

私は、交際して2年になる彼氏に自分が部落出身であることを告白する決意をしました。

言ってしまったら、姉のように2人の関係が壊れるかもしれないと思うと、悲しみのあまり涙が出てきました。

私は泣きながらゆっくりと話しました。彼は黙って私の話を聞き、私が話し終わると「話してくれてありがとう。でも本当は

知ってたんだよ」と言いました。

2人の交際が始まった頃、彼の両親はこれから彼女と付き合っていく中で、彼女の住んでいる土地が被差別部落だということを知り、そのせいで別れたりするような心の狭い、差別意識を持った人間にだけは育って欲しくない」と思い、彼に話したのだそうです。

私はそれを聞いて、今度は嬉しくて涙があふれました。彼の両親に本当に感謝しました。

差別は繰り返されず。親から子へ受け継がれてしまうのです。

だからこそ、私も将来、自分の子どもが生まれたら、しっかりと教育したいと思っています。もっともつと人権・部落問題について、きちんと教育を受けた人たちが増えれば、部落問題はなくなると思います。

(第36回大分県人権教育
研究大会から抜粋)

涙を流すほどの勇気が必要だった彼女の気持ち、それをきちんと受け止めた彼の常識。

「正しく知れば、どんな差別もなくせる」と信じよう。

次号(その12)につづく